

まちの話題



1月20日、熊本県境付近など5か所で不法投棄されたゴミの回収がボランティアによって行われました。地域おこしグループISARTの呼びかけに市内の高校生をはじめ市民グループ、企業、行政などおよそ120人が参加。道沿いの谷底などに投棄されていた空き缶や紙おむつ、テレビなどの家電、タイヤなど、3時間余りで2.5トンの廃棄物を回収しました。また、ガードレールや観光案内板の清掃もしました。

美しいふるさと伊佐を守り、住み良いまちづくりにみなさん一人ひとりのご協力をお願いします。

ゴミは決められた方法で指定の場所に出しましょう。

ゴミの不法投棄はやめましょう



わらべ歌の画像入り DVD を贈呈



伊佐市内で水生植物園を営んでいる二反田孝男さん（大口鳥巢）から、市内の全小学校に対し、わらべ歌の画像入りDVDが贈呈されました。このDVDには蓮の花が咲いたり、つぼんだりする動画に合わせ、わらべ歌の「ひらいた ひらいた」が収録されています。

歌は、大口明光学園高等学校の生徒が歌っており、二反田さんから子どもたちへ思いを込めた手作りとなっています。

県高校新人ラグビー大会決勝！



第35回鹿児島県高等学校新人ラグビー競技大会の決勝戦が2月1日、さつま町の“かぐや姫グラウンド”で開催され、大口高校と鹿児島工業が対戦しました。

決勝戦にふさわしい攻防が展開される中、均衡を破ったのは鹿児島工業の攻撃。前半に先制のトライを決めました。0-5とリードされた大口高校は、雨で思うように動けない中、終始攻め続け奮闘しましたが、惜しくも準優勝となりました。上位2チームが参加できる九州大会（沖縄）へ出場し、経験を積み重ね、悲願の38年ぶり10回目の花園出場をめざし、練習に励んでいます。

石巻と鹿児島「縁と絆」



2月12日、菱刈環境改善センターにおいて、東日本大震災に伴う「消防活動報告会」が行われました。講師は、石巻消防署特別救助隊の杉浦大樹消防士長と父で石巻市消防団石巻地区第9分団の杉浦栄樹副分団長。

報告会では、会場に集まった市内外の消防関係者など320人に対し、震災直後の過酷な救助活動や家族を守りながら津波から逃げ、近隣住民の避難誘導にあたった当時の様子などが写真とともに紹介され、伊佐市の各種団体をはじめ鹿児島からのさまざまな支援に対してお礼を述べられました。

杉浦消防士長は、「人は自然に勝てないが、想定外の変化、突然の危機的状況に対応できる組織づくりが必要。“最後は人の力”人間力を向上させ変化を乗り越える準備を怠らないことだ」と締めくくりました。

福かざりスタンプラリー



春の風物詩である「伊佐市春の市」でもお馴染みの市商工会女性部の皆さんが作る、つるし雛「福かざり」が今年も華やかに賑やかに登場しました。

今年は、3月8日（金）までスタンプラリーを開催中。「福かざりぶらぶらマップ」に掲載されている5つの会場を巡り、スタンプ5つを集めると、豪華景品が当たるくじ引きに挑戦できます。「ぶらぶらマップ」は、メイン会場（旧かやの家具）をはじめ各会場に配布しています。会場ごとの個性溢れる「福かざり」で、心癒され福を招いてみませんか。※3月9・10日の「春の市」では、展示のみ

「できる親切はみんなでしょう」それが社会の習慣になるように

羽月西小学校の児童 11 人が、社会福祉協議会から「小さな親切運動」実行章表彰を受けました。

高齢化の影響で放置されている校区内の渋柿を干し柿にして、東日本大震災の被災地である南三陸町に送ったことが評価されました。この「干し柿プロジェクト」は今後も継続して行うということです。

間もなく震災から 2 年、今でも避難所で生活をしている人たちがいます。市では、福島県から子供たちを受け入れたり、市の職員を南三陸町へ派遣したりしています。今後も震災を風化させないためにも、一日も早い復興を願いながら、東北を支援していきましょう。



姉妹都市交流再開に向けて



伊佐市と姉妹都市盟約を結んでいる韓国の南海郡を、2月4日から5日にかけて、伊佐市・韓国南海郡交流協会の会長をはじめ4人が訪問しました。これまで、さまざまな事情により交流を控えていましたが、この訪問をきっかけに、以前のように盛んな交流が行われ、相互理解と相互交流が図られることが期待されます。

「伊佐警察署」4受賞



伊佐警察署と市が「安全・安心確保対策」のために連携し、交通安全教育、高齢者免許返納事業など、交通事故抑止を積極的に推進したことや6年連続で犯罪件数が減少していること、また連続窃盗事件の検挙など、警察業務全般にわたり成績優秀であったことが評価され、4つの本部長表彰を受けました。

有馬署長は、「地域の皆さんが交通安全を意識し、事故のない安全安心なまちづくりと一緒に取り組んでくれたおかげ。」と受賞の喜びと地域への感謝を述べました。

ようこそ！伊佐農林高校へ ～高校生が小学生に食育～



伊佐の食材を使い、地域の食文化を伝承しようと、伊佐農林高校生活情報科の生徒 12 人が先生になり、市内の小学生 12 人とその保護者らに、郷土料理「そばぼうろ」と「そば汁」の作り方を指導しました。

指導役の高校生も“生活研究グループ”の皆さんに教えてもらい、数回の練習を重ねてこの日を迎えました。少しぎこちないお手本も明るいトークでカバーし、緊張ぎみだった小学生も笑顔に。家でのお手伝いに興味を持ち始めるころの小学生は、お兄さん、お姉さんとの料理づくりがとても楽しかったようです。

年の近い高校生が小学生と触れ合いながら食育を行うことで、子供たちにより食事の大切さを伝えられ、また生徒たちも教えることにより食への理解を深められたのではないのでしょうか。